
仮面ライダーフォーゼとメテオ 過去と目的の仮面ライダー

パイオネット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーフォーゼとメテオ 過去と目的の仮面ライダー

【Nコード】

N8206Z

【作者名】

ペイオネット

【あらすじ】

それは、過去に仮面ライダーに助けしてくれた仮面ライダーとある目的のために動く仮面ライダー今、彼らが出会う時、少女達の出会いが訪れ、共にゾディアーツを倒す物語（これは仮面ライダーフォーゼ&ヒロインズの2代目にあたる話です。後やめてごめんなさい。

）

プロローグ1（前書き）

如月 星牙くんは自分が作った弦刀より、クールなところが多い高校2年生です。成績は中の上って感じですよ。

プロローグ1

ここは、とある剣道場

少女達は剣道場で竹刀を持ち今日も汗をかきながら稽古を続けていた。

「先生」

「どうしたんだい？」

生徒の一人が質問したのは、さわやかな髪はポニーテールでまとめ、下はスク水着であり上着は軍服をきた女性だった。

彼女の名は北郷章香元は海軍所属の魔女ウィッチかつて駐欧武官を務めたこともあり、頭脳明晰。軍人の間では「軍神」との呼び声も高い。

「あの道場に貼り付けている絵って誰が書いたのですか？」

生徒が指を指している方向を見るとその絵は、クレヨンで描かれ、顔は昆虫の飛蝗をモチーフであり首には赤いマフラーが巻いた絵だった。

「ああ、あれは君達がここに入門する前の生徒が描いた絵だ。よく

泣きじゃくっていて、私も少し、手におえなかったからな」

章香は微笑しながら答えた。

「でも、これって仮面ライダーにそっくりですね」

「かめんらいだー？」

章香は生徒のいった言葉に首を傾げた。

「はい、仮面ライダーというのは、人類の自由と平和を守るため、密かに悪と戦っている都市伝説のことですよ」

「へえー」

生徒の説明で章香は感心した。

「後、今最近、噂になっている仮面ライダーフォーゼがいるんですよ」

「仮面ライダーフォーゼ？」

もう一人の生徒が仮面ライダーの話を聞き、今最近の仮面ライダー、フォーゼがこの地球の為に戦っていることを話した。

「私、携帯で友人からフォーゼの画像が届いたので先生見てください。」

生徒の携帯を受け取り、携帯の画像をみた。これをみた章香は……

「はは、仮面ライダーってこんなイカみたいな頭をしたのもいるのかい？」

「正式にはロケットだそうです」

フォーゼの画像を微笑しながら笑っている章香を生徒がフォーゼの頭をロケットと説明した。

「……これは」

「どうしたんですか？」

章香はフォーゼの画像を見て、あることに気づいた。

(この拳の付き方はあの子が近所の子と喧嘩するとき、よく拳を突き出して、喧嘩していた態勢だ)

章香はフォーゼとゾディアーツの戦いを見た時、

(この戦い方・・・やはりあの子が武器を取らずに拳と蹴りで戦っている時も一緒か・・・)

章香は生徒に携帯を返して、道場から出て、今も青い青空を眺めた。

「仮面ライダー・・・フォーゼ・・・星牙・・・君なのか」

章香はそう呟きながら青空を眺めた。

プロローグ1（後書き）

仮面ライダーフォーゼの正体が軍神に見破れました。次のプロローグは星牙くんとメテオの登場です。

プロローグ2（前書き）

プロローグ2です。本編はペルセウス編で始めようと思います。

プロローグ2

それは何故か、突然起こった。

燃える町、死んでいる人間、そして、死んでいる人間の死臭、それを見た少年は、体をビクビクさせながら歩いた。

そして、少年はある光景を目にした。

それは、黒い服と覆面を被った連中が、家族連れの人間を容赦なく、殺した。

だが、残った少女は少年の方に気がついて、手を少年の方に差し伸べた。少年は差し伸べた方向へ、進もうとしたが、

《ブシュッ》

少女は黒い連中に首を切り裂かれ、噴水の血しぶきが噴出した。

少年はその光景を見て腰が抜け、ガタガタと震えた。

黒い連中は少年の方に気がつき、刃物を持って襲いかかってきた。

その時、彼が現れた。

「待てい！！」

それは頭は昆虫の飛蝗を思わせるように、首には赤いマフラーそして両手足には、銀のブーツとグローブを身に付けた戦士だった。

それを見た少年は啞然とした。

戦士は黒い連中をいとも簡単に拳と蹴りで一掃したのだった。

戦士は戦いが終わったかのように、少年を見た。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「？」

戦士は何を言っているのか少年はわからなかった。

戦士はバイクに乗りそのままどこかに、去って行った。

少年は思った。

いつか、あの人のような力があれば、今頃、助けられたかもしれない
い・・・

「・・・んっ・・・夢か」

少年はベッドから起き上がった。

「また、あの夢か……ここ最近、毎日続くな？」

少年はベッドの横にある4本のスイッチをセットしたベルトだった。

「6時半……行くか？」

少年は目覚まし時計を見て、下に下りた。

少年の名は如月 星牙

またの名を仮面ライダーフォーゼ

一方、その頃、6時半でも霧が漂う所に黒い服を纏った男がいた。

「天の川学園……ここに奴らがいるのは……アタリか……
・ハズレか」

男は黒いベルトを腰につけ、青いスイッチをセットした。

「変身!!」

男が変身したのは頭は彗星をモチーフとした頭で、体は夜空の星をイメージした体だった。

仮面ライダーメテオ

朔田 流星

過去と目的の仮面ライダーが出会う時、少女達の物語とゾディアックの戦いが激しくなっていく。

プロローグ2（後書き）

本編での登場ヒロイン作品はリリカルなのはティアナ編でいこう
と思っています。いきなりですいません。

スイッチ1 俺の友達（前書き）

ペルセウス編とリリカルなのはティアナ編・・・はじまります。

スイッチ1 俺の友達

俺の名は如月 星牙 もともととは、ある事件のきっかけで親をなくしている。その事件後、ウィッチーズに保護され、後に軍神と呼ばれたウィッチ、北郷章香さんに引き取られ、この彼女の家に住んでいる。

「さて……今日の朝ご飯はサラダとパンとハムエッグだな」

星牙は早速、今日の朝ご飯を作り、25分で出来上がった。そして、星牙は・・・章香のある物を食べなきゃならなかった。

冷蔵庫からラップで包んだおにぎりのような物体だった。正式にはおにぎりに似ているのだが、中にはカニのハサミとか、エビの尻尾・
・あるいは中にはみかんがあるのだ。

これを作った人物はこの家の主、北郷章香であった。彼女は頭脳明晰で免許皆伝と星牙はきいてるが、料理だけは、駄目なのだ。ある時、彼女が調理場で包丁を持った時、星牙すら、見たことのない料理を作るのだ。それを防ぐため、小さい頃から料理を学び、章香に作らせまいと必死に作り続けたことだ。

「行つてきます」

この家に住んでいるのは星牙と章香の二人だけである。章香は軍の仕事で忙しく、帰ってくるのは1カ月の1日だけなのである。星牙

は例え一人になっても、学校とバイトで働く友達がいたからだ。

「星牙……!!」

星牙を呼んでいるのは髪はリボンで結んでいて、目の瞳は緑色で星牙がバイトする洋菓子店ストレイキャッツのバイト仲間の芹沢 文乃

「じゃあ」

こっちは猫のような挨拶をして、髪は猫のような耳がある薄い青髪で同じバイト仲間の少女、霧谷 希である。

一緒に天高（天ノ川学園高校）に向かうとき、今度は星牙が所属する仮面ライダー部のメンバーだった。

茶髪でライダー部のマークがつけてあるカバンを持った少年 歌星 賢吾

彼の父は仲間の裏切りによって死亡し、息子の賢吾の為に残した。アストロスイッチとラピッドハッチを駆使して星牙達と一緒にフォーゼの敵、ゾディアーツを退治する石頭

黒く長いロングヘアを纏っているのは、宇宙オタクで、星牙の幼なじみの城島 ユウキ

そして、髪はショートヘアで、学園のクィーンの風城 美羽、そして美羽の隣にいるのは、アメフト部のキャプテンであり、フォーゼと一緒に闘うロボ、パワーダイザーを操るスポーツマンの大文字 隼

そして、すこしチャライ服装とあらゆる情報を伝える天高1年生

JK

そして、なにやら不気味な気を放っているオカルト少女、野座間 友子

これが仮面ライダー部の全員だ。

「おい、如月 君は前にロケットとドリルを二回リミットブレイクしたそうじゃないか？ よこせ」

《ギクッ》

星牙は賢吾の頭には何かリーダーのような物があるのかと思っていたが、星牙は仕方なく学ランの中からロケットとドリルのアストロスイッチを賢吾に渡した。

「全く、ロケットとドリルの二回リミットブレイクを使ったことではばらく、二つともチャージを終えるまで使えないぞ」

「は〜まじかよ〜」

賢吾の言葉に星牙は溜め息をついた。

「にゃあ、公園のベンチに人が倒れている」

『えっ!?!?』

希の言った言葉に、星牙達は公園の方に目を向けると、そこにはベンチの上で寝ている。茶色の制服を着たオレンジ髪のツインテールで頬にはすこし跡が残った少女であった。

「おい、大丈夫か!?!?」

星牙は少女の方に通りがかって、頬を叩こうとした時、

「あちっ!?!?!」

『!?!?!?』

賢吾は少女の額をそーっと手を差し伸べた。

「やばいな。この子は39度の熱がある」

『えーーーーー!!!!!!』

全員は驚いた。

「じゃあ、ラピッドに入って体を休めましょうよ!」

「部長の私も同感よ。急いで、学校に行きましょう」

JKの判断に美羽は賛成し、一同も賛成した。急いで学校についたが、

「げっ 大杉だ」

星牙は校門の前でちよろつと見たら、星牙のクラスの副担任の大杉忠太である。だけど、大杉は何故か不機嫌で、イライラしていた。

「あーーーーー あの糞校長!!!! 俺の園田先生にーーーーー!!!!!!」

何故か泣いていた。

校門の前の一同は

「よし、俺と美羽が先生を相手している時、お前たちは、その子を看病してやれ」

隼の意見に一同は呟いた。

《バーーン!!!》

『!!!?』

何故か、地響きが聞こえた。

「わりいが、此処は俺の出番だ。行くぜ 賢吾!!!」

「如月!? ……ユウキ、その娘を頼んだぞ!!!」

「城島ユウキ、了解しました!!!」

賢吾はアストロスイッチカバンを持って星牙を追った。

そして、ユウキは文乃と一緒に抱えて、ラピッドハッチに向かった。

スイッチ1 俺の友達（後書き）

クライマックスヒーローズフォーゼのオープニングの歌はいいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8206z/>

仮面ライダーフォーゼとメテオ 過去と目的の仮面ライダー

2011年12月29日00時47分発行